

二〇一八年九月一四日

童謡の歌詞カード手に敬老日
磨崖仏徐々に浮き出づ月明り

こすもす
愛正

二〇一八年九月一三日

秋の雲掴むかに伸ぶクレーンかな
子規句碑の袂へ枝垂れ萩真白

たか子
菜々

二〇一八年九月一二日

無花果をもぎて一服畑仕事
息詰めてとる新米の釜の蓋
秋霖や素足いとしき子守像
神杉の根方より出づ蟻の列

三刀
たか子
菜々
なつき

二〇一八年九月二日

畑仕事侍者のごとくに赤とんぼ
園庭に大集合す赤蜻蛉
落つる日に影絵となりし芒原

三刀
こすもす
そうけい

二〇一八年九月一〇日

それぞれに過ごす二人の夜長かな
こぼれ萩な踏みそと行く車椅子
虫の音に箸の進みし夕餉かな
門前をまず整へん台風禍

やよい
智恵子
せいじ
たか子

二〇一八年九月九日

停電もまたよしとせん夜の秋
台風過安堵のごとく虫すだく
つくつくしリズムに乗りて夕支度
孫病むと記すメールに秋思憑く
洗面所今夜も来てるやもりの子
菊の日や九十二歳背筋美し

もとこ
ぼんこ
さつき
せいじ
明日香
たか子

二〇一八年九月八日

一人居や難解パズル解く夜長
上向いて歩けと大き秋の虹
同学と半世紀ぶり菊の酒
客席に鬼舞ひ降りし里神楽

はく子
やよい
せいじ
さつき

毎日句会みのる選・二〇一八年九月一六日